

布勢の水海に遊覧する賦一首 并せて短歌

三九九一番

もののふの 八十伴の緒の 思ふどち 心遣ら
むと 馬並めて うちくちぶりの 白波の 荒磯
に寄する 渋谿の 崎たもとほり 松田江の 長
浜過ぎて 宇奈比川 清き瀬ごとに 鶴川立ち
か行きかく行き 見つれども そこも飽かにと
布勢の海に 舟浮けすゑて 沖辺漕ぎ 辺に漕ぎ
見れば 渚には あぢ群騒き 島廻には 木末
花咲き ころばくも 見のさやけきか 玉くしげ
二上山に 延ふつたの 行きは別れず あり通ひ
いや年のはに 思ふどち かくし遊ばむ 今も見
るごと

三九九二番

布勢の海の 沖つ白波 あり通ひ いや年のはに
見つつしのはむ